

科目名	造形表現		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2023年度 後期	単位数	1
担当教員	葉山 亮三		
内容および計画	<p>「造形表現」について</p> <p>造形における表現とは形や色、材料などに係わりながら、描いたり、作ったりする造形活動を通して、発想や構想の能力、創造的な技能を高めるものである。造形表現では主に素材、技法の体験活動を行う。立体表現では素材の特性、三次元の構成を楽しむ。平面表現の基本となる色彩、線、面を踏まえ、モダンテクニック等の技法体験を通じて、材料や用具の特性を活かし、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを表す幅広い術を養う。また描画表現を通して、五感を使って対象を感じ取る感性を育成し、共同制作により、大きな対象を構成する力を得る。これまでの自分たちの活動を振り返ることで鑑賞の能力を養う。</p> <p>領域表現に関する科目について</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針の定める5領域の中に位置するのが「表現」という領域である。「表現」のねらいは以下の3点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 <p>これらを子どもたちに育むことができるよう、それぞれ科目が設置されている。また表現は音楽による表現、身体による表現、造形による表現に細分化されるが、これらが連動することで育まれる領域である。本学のカリキュラムには表現と名の付く科目が多く、煩雑である。それぞれの科目の立ち位置を整理し、理解したうえでそれぞれの科目を履修し学ぶことを求めるものとする。</p> <p>領域に関する専門的事項に属する科目「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」</p> <p>「幼児と表現Ⅰa」は初めに学ぶ科目になり、子どもたちの表現とは何か、その特性、発達段階を踏まえた基礎的知識を学ぶものである。音楽表現、身体表現、造形表現を各4回受講し学んだ後、グループワークでより学び深めるものである。「幼児と表現Ⅰb」は「幼児と表現Ⅰa」では学びきれなかった音楽表現、身体表現、造形表現について基礎的な学びを深め、グループワークでシェアリングする。これらの2科目は領域「表現」のベース科目になる。</p> <p>保育内容の指導法に属する科目「表現Ⅰa」「表現Ⅰb」</p> <p>「表現Ⅰa」「表現Ⅰb」は保育内容の指導力を高めるための科目である。本学ではこの資質を身に付けるため、主に二つの活動を主軸としている。</p> <p>一つが教材研究である。「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」で学んだことを生かし教材研究を進め、それを指導法に転換する。指導計画案を作成し、模擬保育を行い、改善を図る。</p> <p>もう一つは劇表現の実践である。劇表現は音楽表現、身体表現、造形表現が連動することで完成し、各表現のつながりを体験的に学ぶことができる。またグループ活動を主とし、学生間でブラッシュアップを図ることでアクティブラーニングの学びを得る。</p> <p>どちらもPDCAサイクルを繰り返すことで指導力の向上を図る。</p> <p>領域「表現」の学びを深める選択科目「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」</p> <p>領域「表現」の学びを深めるため、選択科目が設定されている。</p> <p>「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」はピアノの演奏技術を身に付ける演習を主とし、保育者に必要な演奏技術を身に付ける。</p> <p>「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」は「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」の発展として設定され、基礎的な知識演習を押し広げ、より幅の広い表現の知識、方法を学ぶ。</p> <p>本学は保育者を志す学生には「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」の履修を推奨しており、「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」からも2単位履修することを推奨している。(社会福祉士受験資格に関する科目を多く履修するものを除く)</p> <p>より発展的な自由科目「こども実践演習Ⅰa」「こども実践演習Ⅰb」「こども実践演習Ⅱa」「こども実践演習Ⅱb」</p> <p>これらの表現に関する科目をさらに深めるため、本学は自由科目を開講している。</p> <p>「こども実践演習Ⅰa」「こども実践演習Ⅰb」は直接子どもと関わるイベントを企画・実践し、これまで培った表現に関する学びを実際に運用することができる。</p> <p>「こども実践演習Ⅱa」「こども実践演習Ⅱb」ではピアノの演奏技術を学び、特に苦手意識を持つ学生が学生生活の2年間ピアノを学び続けられるように設定されている。</p>		
1	オリエンテーション 鑑賞 ～アンリ・ルソーとその作品～		
2	色彩の理解 ～色水づくり～		
3	空間遊び1 ～紙工作～		

4	空間遊び2 ～インスタレーション～
5	空間遊び3 ポップアップカード
6	線の表現 多様な線 ～オリジナル筆を作る～
7	線から面へ ～クレヨンの線、絵の具の面～
8	色面構成 ～色紙を組み合わせて作る～
9	モダンテクニック1 凹凸の利用 ～フロッタージュ～
10	モダンテクニック2 偶然の利用 ～ドリップングとデカルコマニー
11	モダンテクニック3 型の利用 ～スパッタリング～
12	モダンテクニック4 版の利用 ～ステンシルとスタンピング～
13	描画表現 ～見て、触って、味わって描く～
14	共同製作 ～ムナーリの木～
15	まとめ ～絵画表現と幼児画の持つリアリティ～

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
幼児の造形表現	渡辺一洋	ななみ書房	978-4-903355-38-2	2015

参考書

『木をかこう』 ブルーノ・ムナーリ 作 須賀敦子 訳 有限会社・至光者 発行
『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省

成績評価

評価方法	割合(%)
作品、リアクション・ペーパー	80
まとめ課題	20

学習到達目標

- ・それぞれの造形素材、技法及び道具について基本的な扱い方を身に付ける
- ・演習を通じて、発想力を豊かにし、素材を活かして表現する
- ・こどもの表現を理解し、指導する力を得る。

先修条件

実務経験

実務経験あり：造形教育者として、小学生を対象とした河合塾美術研究所こども教室の講師を11年勤め、その間、幼児、小学生を対象とした造形教室、造形ワークショップを幼稚園、美術館、アートイベントにて実践してきた。

その他